

平成 30年 1月 9日

【はじめに】

近年、造血器腫瘍の発症、進展を支える微小環境の存在が注目されています。微小環境には、腫瘍周囲に存在して栄養を送る正常細胞、分子、血管などが含まれており、腫瘍の存在によって微小環境が変化することもあれば、微小環境によって腫瘍の増殖が影響を受けることもあります。私達は最近の研究で、造血器腫瘍患者様では、腫瘍細胞を取り囲む「骨髄中の環境」が大きく変化していることを見つけました。そのメカニズムを解明すれば、腫瘍細胞そのものではなく、その周りの細胞を標的とする新しい治療法の開発につながる可能性があります。

そこで私達は、造血器腫瘍患者様の骨髄細胞を特殊な条件で培養して、間葉系幹細胞を樹立する研究を計画しました。間葉系幹細胞は骨、軟骨、脂肪などに分化する多能性を持った細胞で、骨髄中の環境形成に重要な役割を果たしています。この細胞の解析を通じて造血器腫瘍の発症・進展と骨髄微小環境の関係を明らかにし、将来的には新しい治療法の開発に繋げていきます。なおこの研究は、東京大学医科学研究所倫理委員会の承認を得て研究機関の長の許可を受けて実施されます。

【対象となる患者様】

東京大学医科学研究所附属病院において1998年2月～2017年12月までに診断、治療を受けた骨髄異形成症候群、急性骨髄性白血病、およびその類縁造血器腫瘍の患者様で、診療目的で採取・凍結した骨髄細胞が保管されている方。

【方法】

骨髄細胞から間葉系幹細胞を樹立し、間葉系幹細胞の分化能、増殖能、造血指示能、遺伝子発現などを詳しく調べ、造血器腫瘍患者様由来の間葉系幹細胞が持つ特性を明らかにします。また、造血器腫瘍の種類、患者様の年齢、移植の有無、使用した薬剤の種類、感染症発症の有無、転帰などの診療情報を参照し、間葉系細胞の特性を規定する鍵となる因子を同定します。

【研究期間】

2018年 1月 9日 ～ 2022 年 3月末

【対象となる患者様とご協力いただきたいこと】

ご協力いただきたいことは、診療目的で採取・保存してある骨髄細胞の一部と、診療情報（造血器腫瘍の種類、患者様の年齢、移植の有無、使用した薬剤の種類、感染症発症の有無、転帰など）を本研究に使わせていただくことです。

【個人情報保護の方法】

診療情報を使わせていただくにあたっては、直接患者様を識別できないような登録番号を用いて匿名化を行います。登録番号と個人情報の対応関係を記した表（対応表）は細胞療法分野の鍵のかかる保管庫にて厳重に管理します。

【研究成果の公表について】

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者様の個人情報は厳重に守られますので、第三者に患者様の個人情報が明らかになることはありません。なお、他の研究者による研究成果の検証可能性を確保するために、東京大学医科学研究所では「東京大学医科学研究所生命科学系研究データ保存のガイドライン」を策定しております。これに基づき、発表後もデータを東京大学医科学研究所に長期間保存させていただくことをご了承ください。

【問い合わせ窓口】

この研究についての質問やご自身やご家族のデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合、あるいは、本研究への診療情報の使用について辞退されたい場合、下記の窓口までお問い合わせ下さい。また、本研究について詳しくお知りになりたい場合には、研究計画書などの資料をご覧くださいので（ただし、他の対象者などの個人情報や知的財産の保護などに支障がない範囲内で）、下記の窓口までご連絡ください。

東京大学医科学研究所
先端医療研究センター
細胞療法分野
北村俊雄
〒108-8639
東京都港区白金台4-6-1
TEL: 03-5449-5759
E-mail: kitamura@ims.u-tokyo.ac.jp